

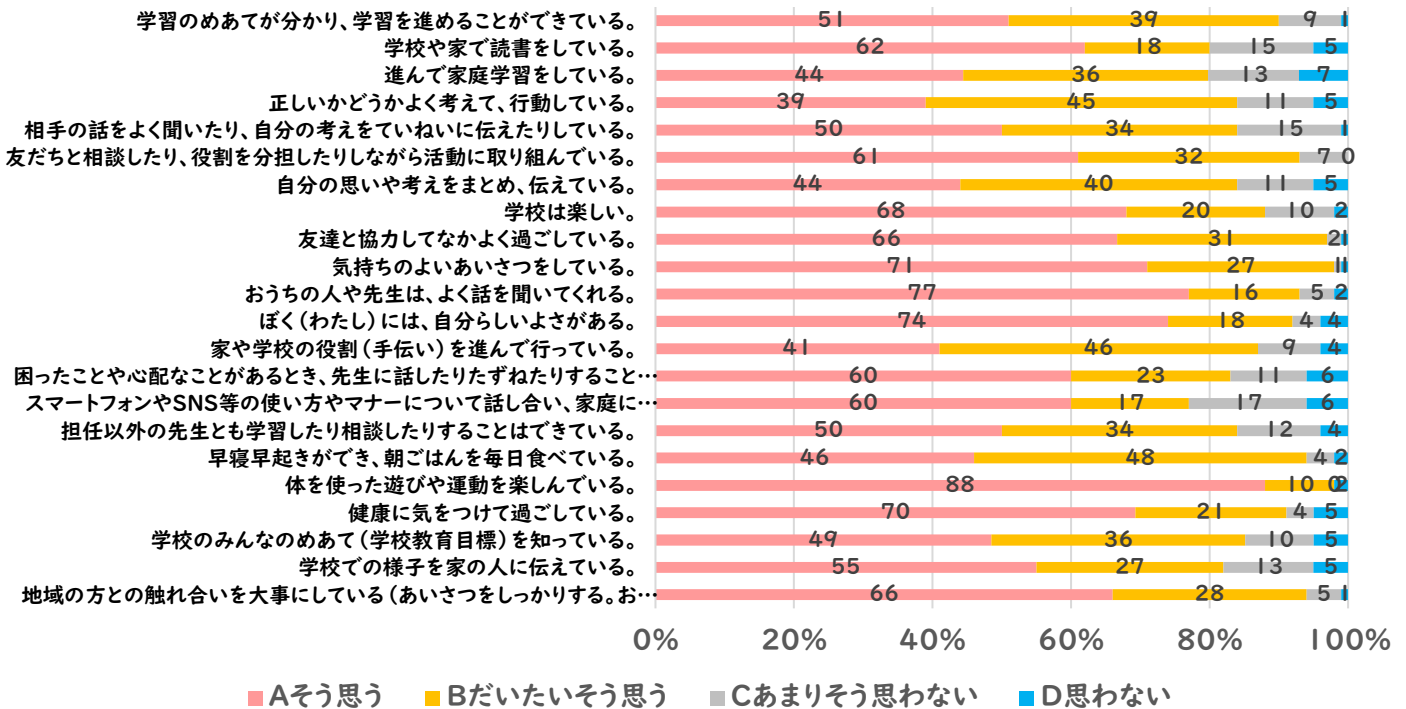


《児童・保護者アンケート結果のご報告》

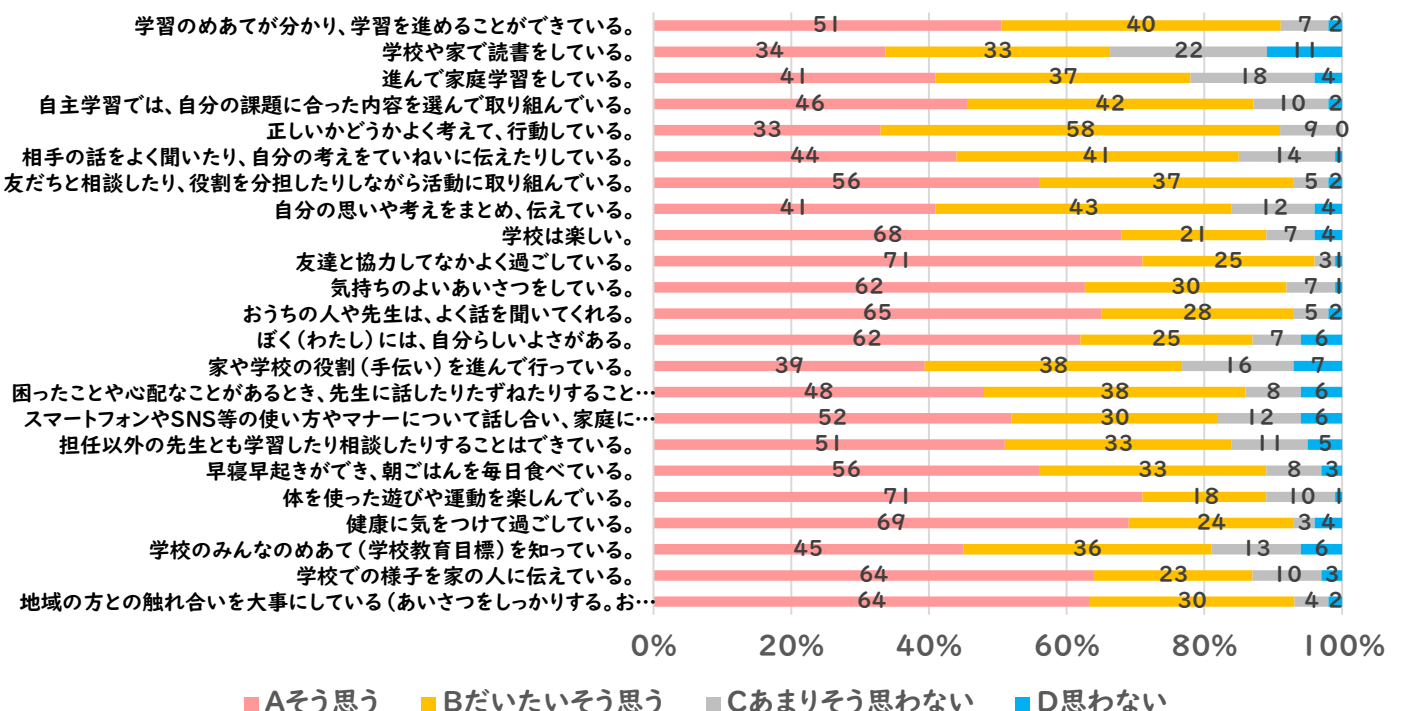
保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび12月に実施しました後期の児童アンケートと保護者アンケートの結果がまとまりました。前期と比較しながら、結果をご報告いたします。

児童アンケート(低学年)



児童アンケート(中・高学年)



【児童アンケートより】

「学校は楽しい」「友だちと仲良く過ごしている」「あいさつができる」など、90%前後の高い肯定率が見られました。

とくに 1・2 年生では生活習慣や学習の姿勢が前期と比べて肯定的な回答の割合が増加しました。

- ・ 「早寝早起きをし、朝ごはんを毎日食べている」の項目： +8pt (86%→94%)
- ・ 「学習のめあてが分かる」の項目： +7pt (83%→90%)
- ・ 「友達と相談したり、役割を分担したりしながら活動に取り組んでいる」の項目： +8pt (85%→93%)

学習に関しては、自分で見通しをもって学ぶ姿が育ってきていると読み取れます。その要因として、「めあての共有」「活動後の振り返り」の定着が背景にあると考えられます。

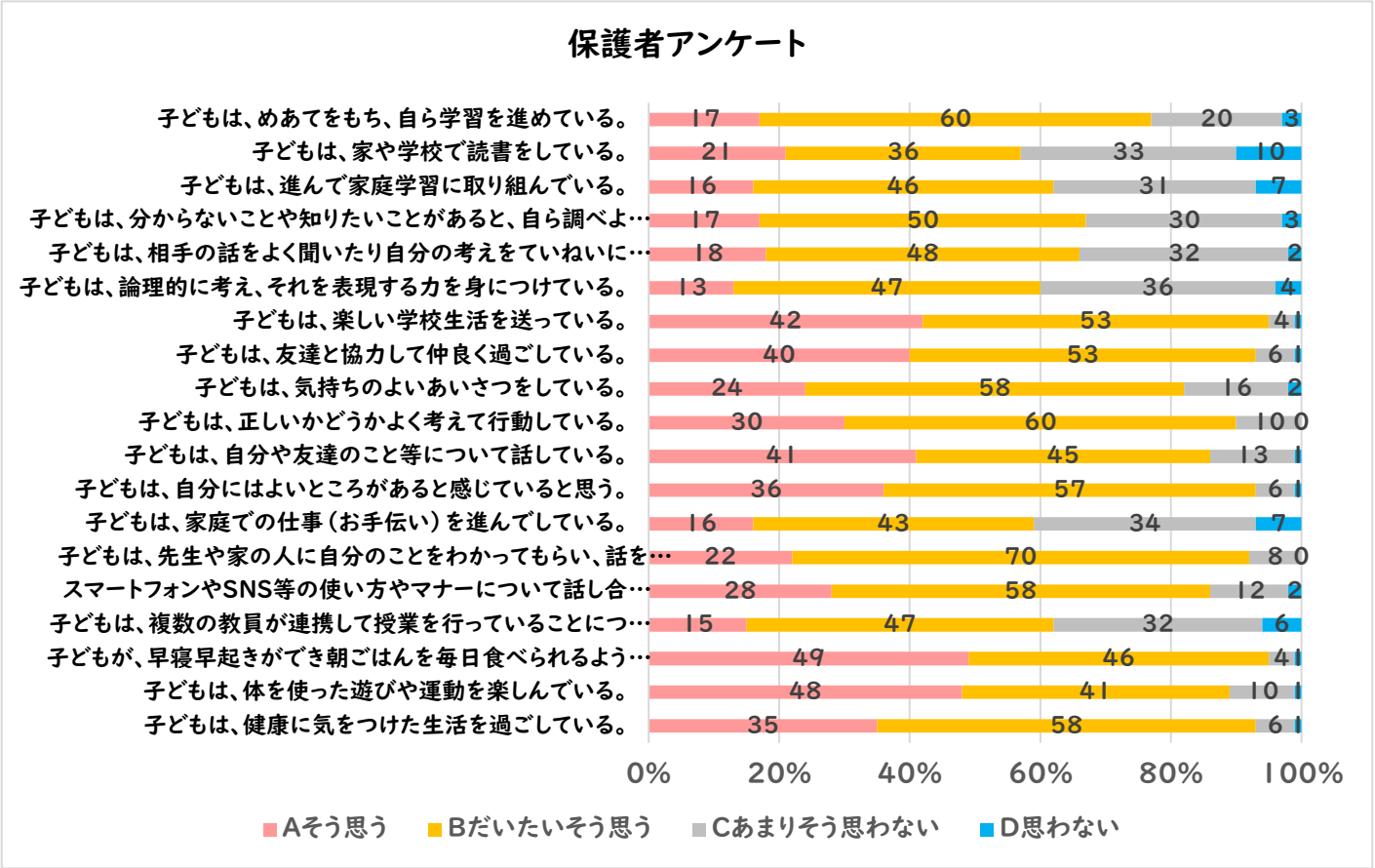
また、中・高学年では、「進んで家庭学習をしている」の項目で6pt (72%→78%)の肯定率の増加が見られました。

一方、以下の項目から課題も見えました。

- ・ 「学校や家で読書をしている」： 低学年 -4pt (84%→80%) 中・高学年 -6pt (73%→67%)
- ・ 「相手の話をよく聞いたり、自分の考えをていねいに伝えたりしている」：低学年 -3pt (87%→ 84%)
中・高学年-2pt (87%→85%)

家庭学習(自学)は定着していますが、学年が上がるにつれ、読書時間が学習や他の活動に置き換わっている可能性があります。そのため、学習活動とのバランスを図りながら、短時間でも読書に親しめる場面を設け、読書の楽しみを知り、子どもたちが継続して本と関われるようにしていきたいと考えます。「相手の話をよく聞いたり、自分の考えをていねいに伝えたりしている」の項目で肯定的な回答が減少していることに関しては、今年度の研究において「表現力」の育成を目指し、授業の中で自分の思いや考えを言葉にして共有する機会を多く設けてきました。その一方で、児童が自分の考えを自信をもって発言するためには、考えを整理したり、どのような言葉で伝えるかを工夫したりすることが大切だと思います。来年度も引き続き、子どもたちが安心して考えを伝え合い、互いに学び合える環境づくりに取り組んでいきます。

【保護者アンケートより】



● 保護者から見た子どもの姿

家庭での子どもの姿にも前期と比べ前向きな変化が見られました。

- ・「子どもは、めあてをもち、自ら学習を進めている」の項目：+7pt（70% → 77%）
 - ・「子どもは、分からないことや知りたいことがあると、自ら調べようとしている。」の項目：+3pt（64% → 67%）
- これらから“主体的な学習行動”が広がっていることが分かります。

一方、以下の項目では肯定的な回答が前期と比べ減少しました。

- ・「子どもは、相手の話をよく聞いたり自分の考えをていねいに伝えたりしている。」の項目：-9pt（75% → 66%）
- ・「子どもは、気持ちのよいあいさつをしている。」の項目：-7pt（89% → 82%）
- ・「子どもは、体を使った遊びや運動を楽しんでいる。」の項目：-4pt（93% → 89%）

今回のアンケート結果を踏まえ、学校としては、子どもたちが学習面・生活面ともに充実した生活を送ることができるよう、次のような方向性を大切にして取り組んでいきたいと考えています。

- ・自分の意見を表現する力を伸ばすためのさらなる授業の工夫や改善
- ・様々な場面で子どもの「思い」を大切にする意思決定の場の工夫
- ・友だちと考えを伝え合ったり協力したりできる学びの機会の拡充
- ・体を動かしたくなる環境整備
- ・何でも話せる環境（雰囲気）づくり
- ・読書週間や委員会の取組と連動した、本に親しむ場の拡充

このような点を意識しながら、今後も、子どもたちの成長につながるよう、日々の教育活動を丁寧に進めていきます。これからも学校・家庭・地域が協力し、子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

